

翼をください。

あらすじ

父 親に性的虐待を受けていた
ケイは、自宅を飛び出し、学校にも行かず、出会い系で知り合った男たちと寝てはこづかいを貰い、あてのない日々を過ごしていた。

そんなある日、学校の体育教師である稲村に、男とホテルから出る所を見つかってしまう。逃げだすケイに、稲村はすぐに追いつき、抱きしめてきた。

学校に來なくなっていたケイを心配していた稲村は、見つけたことに安心していった。ところがケイはそんな稲村を誘惑する。実は、前から稲村に好意を寄せていたケイは、稲村のことをゲイではないかと思っ抜いていたのだ。

しかし、そんな誘惑を振り切り、稲村はケイを港から海に放り投げる。勃起しながらも、誘惑に負けず、自分が悩んでいた事に気づけなかったことを悔やむ稲村の姿に、ケイはとうとう自分が父親に性的虐待を受けていることを打ち明けるのだった。



ケイ
KEI

稲村
INAMURA

翼をください。

山野内海

Part.2

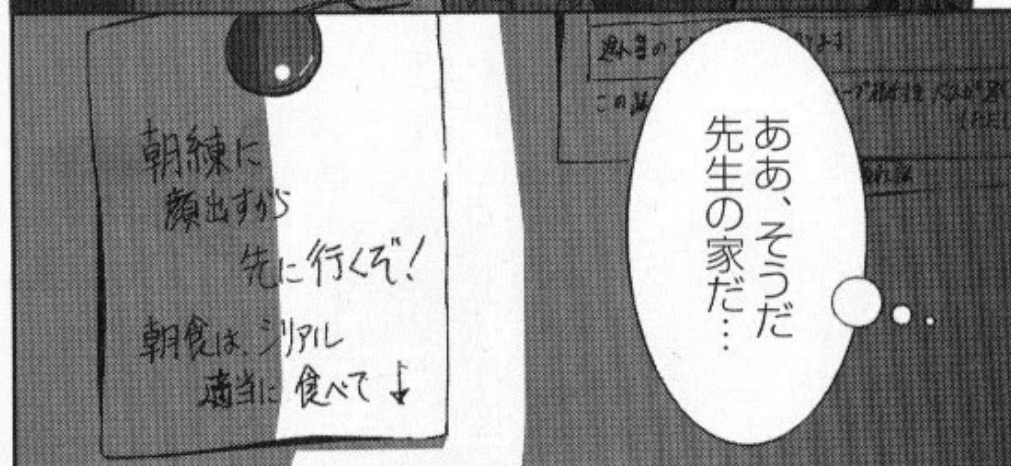
いやだ

いたい

やめて、父さん

うあっ

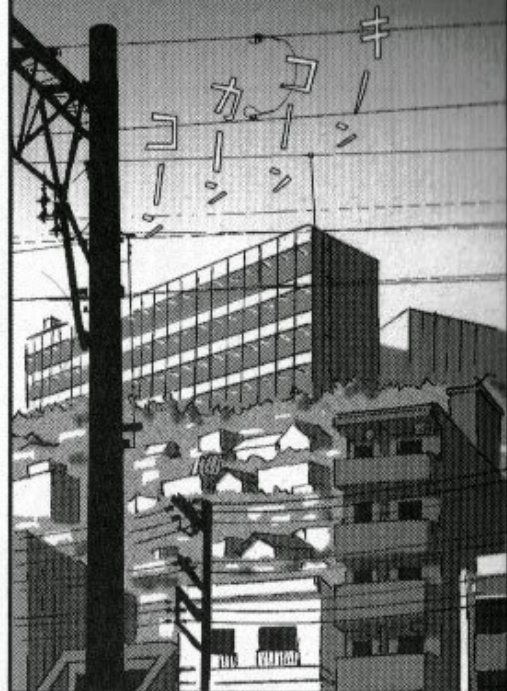
くっ





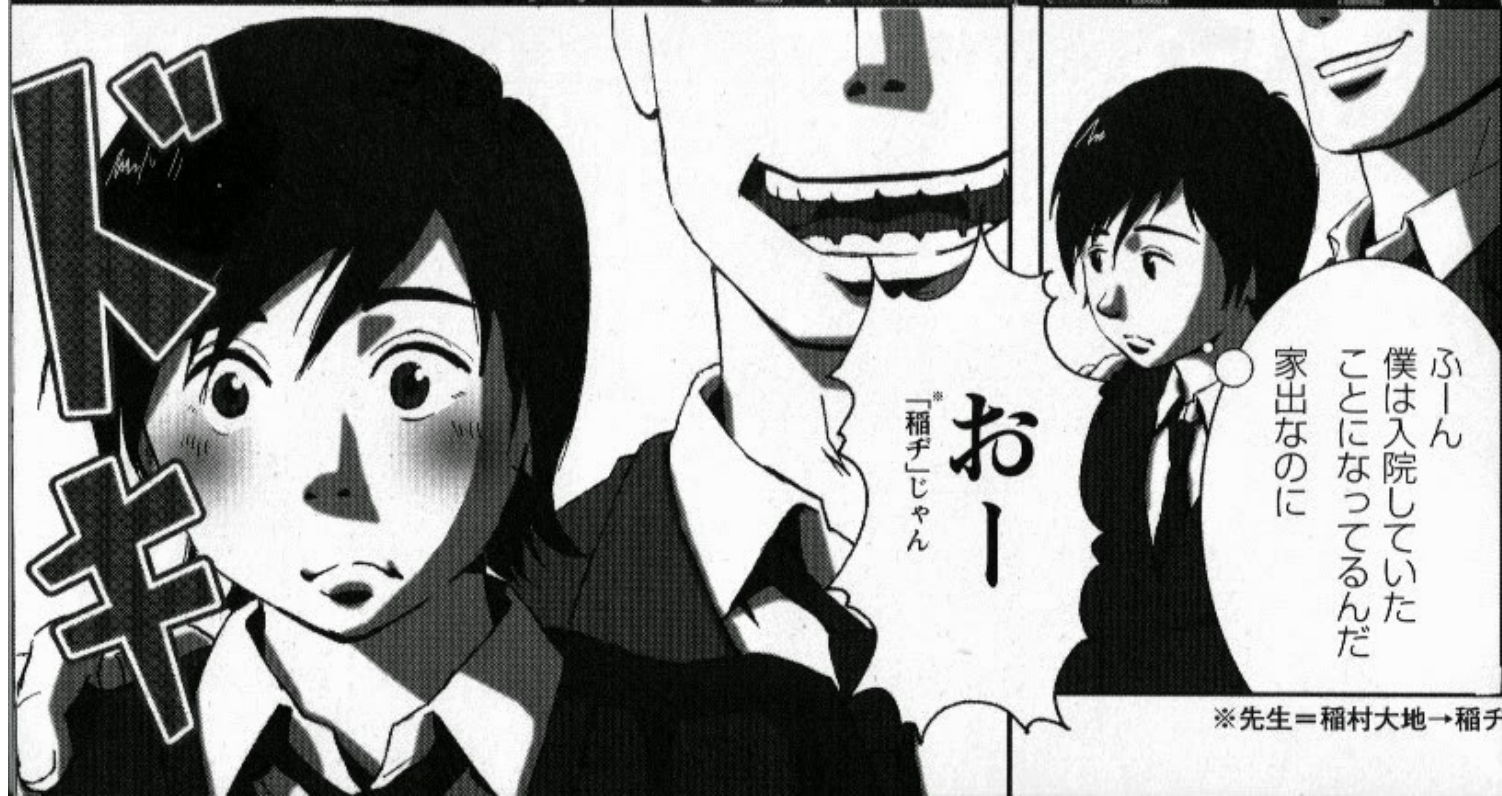
良かったわね、
宿題、写させてもらえる
可愛い・ケイが戻って来て

ああ、俺の可愛いケイ
入院してたなんて
何で教えてくれなかったん
だよ



あーあ
また始まったよ
バカみたい

うっせー
で、看護婦可愛かった？
なんなら女医でも…



おー
「稲子」じゃん

ふーん
僕は入院していた
ことになってるんだ
家出なのに



おう



マジかよ
この寒い中



今日の体育
何やるの？
まさかマラソンなんて
ことないよな？

え
喜べ、大好きなマラソンだ
ちなみに女子は柔道な



やべー
急げええー

……



ひどいわ。おかしいわ
か弱い女子にそんなハングリー
なことやらせるなんて

か弱い女子なんてどこに
いるんだよ

まあ
がんばれ



昨日の電話の後
彼と話したのですが
あなたとは会いたくないと
言っていました

ケイ君ですが
今日は登校してます

職員室

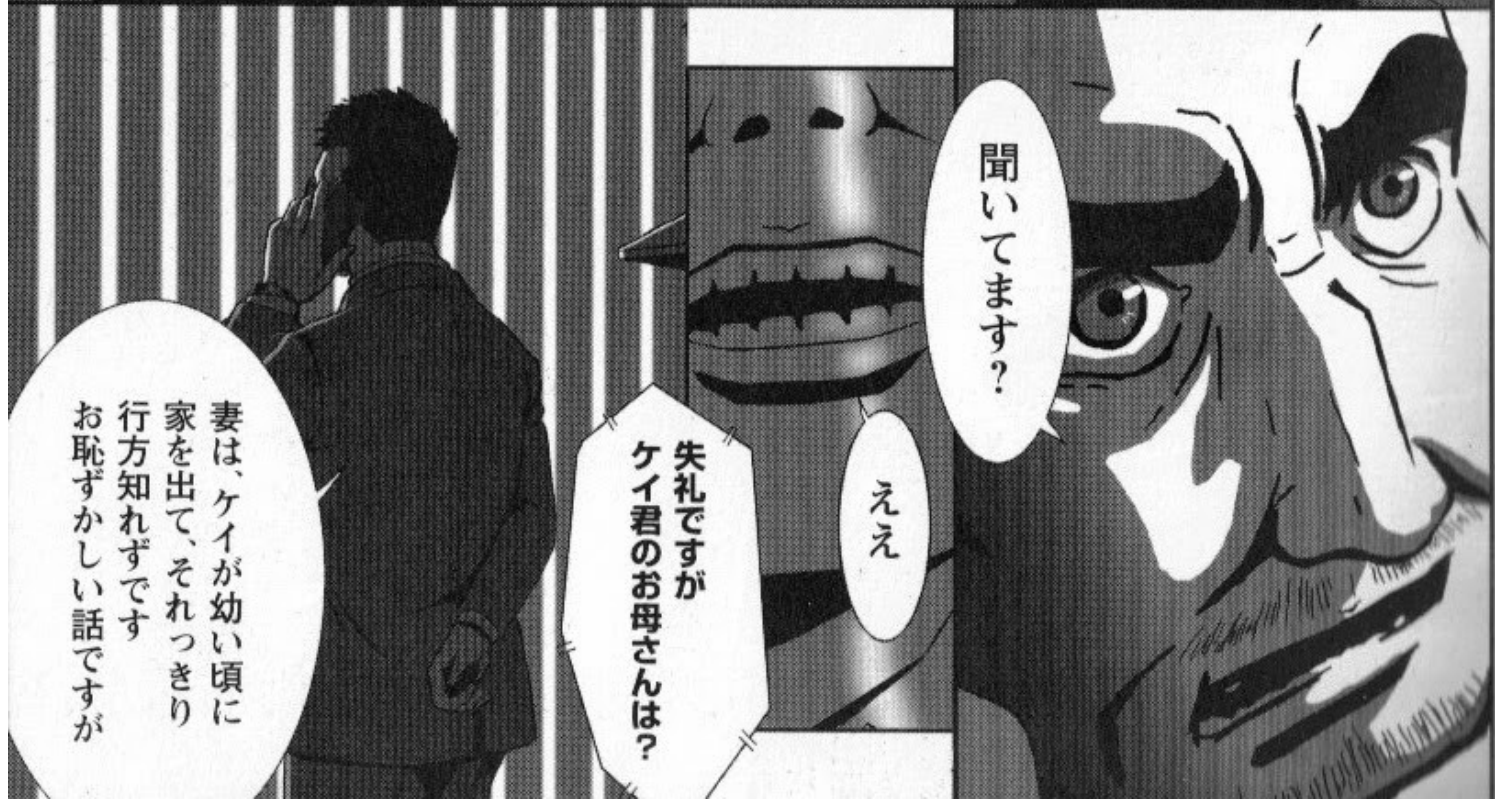


……

本来ならば
しかるべき機関に
通報する所ですが
彼は、頑として
拒んでいます

親類による性的虐待が
表沙汰になるのを嫌がって
いるのもあると思いますが
もしかしたら、あなたを
守ろうとしているのかも
しれません

……



聞いてます？

ええ

失礼ですが
ケイ君のお母さんは？

妻は、ケイが幼い頃に
家を出て、それっきり
行方知れずです
お恥ずかしい話ですが

私はケイ君を信用しています
彼の気持ちを尊重して
あげたい

ケイ君とあなたは
距離をおくべきです

素晴らしい
正義感ですね
ですが、これはあの子と
私の問題です

稲村先生
どうなさったん
ですか？
それ…

あいや…

集合

じゃあ、今から
持久走を始める
全員スタート位置について

え

さみーよ

だりー

やってらんねー

サッカーがいい





はっ

俺は
何を考
えてる
んだ
こんな
時に…



何が
です？



…



お前の
事情を
知って
るのは
俺ぐら
いだけ
だから

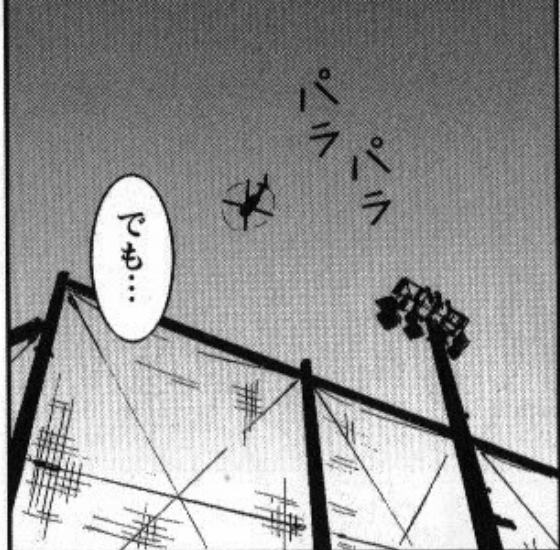
しばらく
の間
俺の所
で預か
る事に
した



さつき
おやじ
親父さ
んと
話して
な

一連の
ことを
表沙汰
に
せず

お前と
親父さ
んの
距離を
持つと
なると
方法は
限られ
てくる



「好きだよ。先生」





だからお前も
気に…

やめて
下さい



そんな風に^{あわ}哀れんで
僕を見ないで下さい
僕があの時言ったことは

本当だった

えっ



僕は…
僕は…

先生の事…
前から



あ

な



な、何て
言ってたかな…

とぼけないで
ください



もういいです



さ、さて
そろそろあいつらが戻って
くる頃かな



体調が悪いので
早退します

おい!
ケイ!

まだ授業中...



あ、はい

すいません
そろそろ図書室を
閉めますので...



夕方...



まいったな...

着きました



また、誰かに
泊めてもらおうかな



あんな事、言って
走り去ったから

先生の家に
行きづらいな



お兄さん
これから俺と
ドライブがてら
飯でも食いに行かない？



...



どこへ
行くんだろ



さあ
食おう

着いた

キッ

ギギ



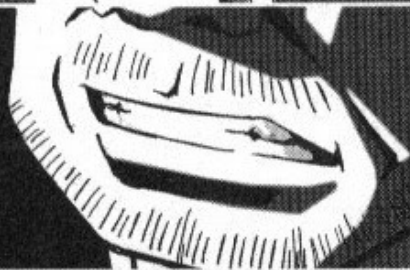
いつも見てる
街なのに

きれい





そうだ



嘘^{うそ}の口だ





分：分
かりました

そうだ

僕はこれから

あなたの一番、近い所にいるんだ



分かってくれたのか？
すいぶんあっさり...

次は全部
チョコのを
下さい

あ、ああ

だから

いつか必ず――

つづく